

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第 20 号—



魚の骨（左）と縄文土器（右）が出土（縄文時代前期）

縄文時代前期の貝塚を調査 いちおうじ ～一王寺(1)遺跡～

一王寺(1)遺跡の貝塚を発掘調査しました。貝塚は、2年前の調査において位置を特定したところです（詳しくは、第18号をご覧ください）。貝塚からは、縄文人が使用していた縄文土器や石器のほか、貝殻かいがらや動物・魚の骨などがたくさん出土します。他の一般的な遺跡では、貝殻や骨は土に溶けてしまい、ほとんど残っていません。しかし、貝塚では貝殻や骨が残りやすく、縄文時代の人びとがどんなものを食べて生活を送っていたかを知るために必要な情報を得ることができます（次頁につづく）。



貝塚から出土したイノシシの骨（縄文時代前期）



新たに集落の広がりを確認！～一王寺(1)遺跡～^{いちおうじ}

新井田川に面した標高 20m から 40 m の台地と、背後にそばだつ標高 100m 前後の丘陵に広がる、縄文時代前・中期を中心とした集落跡です。台地上のゆるやかな斜面に、居住域や捨て場が広がり、遺跡南側の沢にも捨て場しゅうせきがつけられています。背後の丘陵は、集石などの祭祀・墓の空間として利用されていました。

大正 15 年 (1926) に東北帝国大学の長谷部はせべ言人・山内清男やまのうちのしやうおらにより調査が行われ、出土した土器が筒形をしていることから、円筒土器えんとうどと名づけられました。昭和 32 年 (1957) には「是川石器時代遺跡」として中居遺跡・堀田遺跡とともに国の史跡に指定されており、円筒土器文化を代表する遺跡のひとつです。

今回の調査は、①貝塚が縄文時代のいつ頃から形成されたか、②昭和 32 年に史跡指定された場所にどのような遺構があるのか、この 2 つの課題を解決することを目的として調査を行いました。調査期間は平成 28 年 8 月 22 日から 10 月 31 日、調査面積は 61 m²です。

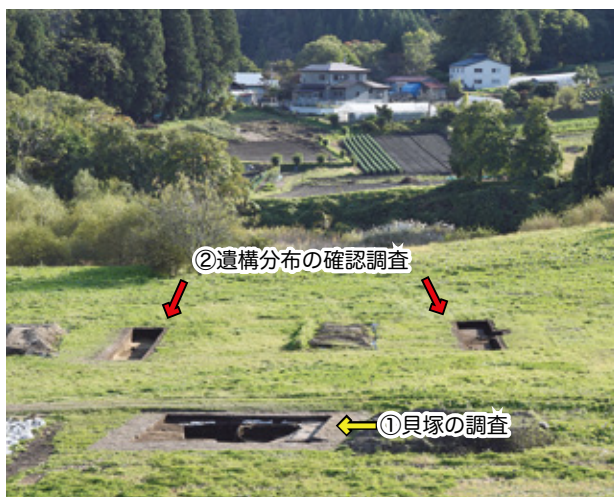
①貝塚の調査：調査地点の地層は、縄文時代中期の盛土（いまから約 4,900 から 5,100 年前）と縄文時代前期の貝層（いまから約 5,200 から 5800 年前）に大きく分けられます。中

期の盛土からは縄文土器や石器のほか、シカやイノシシの骨が出土しました。

一方、前期の貝層からは縄文土器や石器、シカやイノシシの骨と一緒に、魚の骨（カツオ・マグロ・スズキ・サメ・サケなど）、貝殻（イガイ・カキ・アサリ・アワビなど）など海や川の幸が出土しました。貝層が形成された縄文時代前期には、現在よりも海が内陸に入り込んでいたと想定されています。縄文人たちは新井田川をつたい海へ出るなどして、海や川の資源を利用していたのでしょう。

②遺構分布の確認調査：貝塚を調査した南側に 2 か所のトレンチを設定し、発掘調査を行いました。調査の結果、縄文時代中期後葉（今から約 4,000 ～ 4,500 年前）の竪穴建物跡たてあなたてものだ 4 棟がみつき、昭和 32 年の史跡指定地にも中期後葉の集落が広がることを初めて確認することができました。

さらに竪穴建物跡の近くから、住居より新しい時期につくられた集石遺構もみつかりました。集石遺構は、20 ～ 30cm の石を一箇所に並べたもので、お祭りやお墓に関するものと考えられています。このように、当時の集落の様子を考えるうえで重要な成果を得られました。（横山 寛剛）



今回の内容確認調査区の全景（北から）



縄文土器を埋め込んだ石囲炉



集石遺構

須恵器からみる平安時代の集落～田面木遺跡～

田面木遺跡は、馬淵川下流域右岸の標高約 25～50m の丘陵上に所在します。宅地化が進んだ昭和 62 年 (1987) 以降に発掘調査が少しずつ行われ、今回の調査で 49 地点目となります。この調査地点は、遺跡北側に位置し、北東方向にある馬淵川に向かって下る緩やかな斜面です。調査対象面積は 5,890m² で、平成 26 年度は 1,100m²、平成 27 年度は 2,000m²、そして平成 28 年度は 800m² を調査しています。

今年度の調査で、飛鳥時代の^{たてあな} 竪穴建物跡 1 棟、平安時代の竪穴建物跡 10 棟、土坑 6 基、^{ろあと} 炉跡 1 基、^{みぞじょう} 溝状土坑 2 基がみつかりました。

これまでの発掘調査から、飛鳥・奈良・平安時代に集落が営まれていたことが明らかになっています。平成 26 年度から平成 28 年度の発掘調査では、遺跡の北側に平安時代の竪穴建物跡が多くみつかりました。他の地点においても、遺跡北側には平安時代の竪穴建物跡が密集することが確認されています。田面木遺跡は、東西約 400m、南北約 800m と市内でも規模が大きい遺跡ですが、平安時代には馬淵川に近い遺跡の北側に多くの人びとが暮らしていたことがわかってきました。

平安時代の竪穴建物跡からは、須恵器と呼ばれる器が出土しました。須恵器は、高温で

焼かれた灰色の硬い土器で、古墳時代に朝鮮半島から日本に伝わり、作られるようになった焼き物です。田面木遺跡で集落が営まれた時代は、土師器と呼ばれる素焼きの土器が中心で、集落内で製作していたと考えられます。一方、須恵器はその製作に専用の窯が必要で、八戸地域周辺ではみつかりません。おそらく須恵器は、よそから手に入れるものとして、当時は貴重なものであったと考えられます。

出土した須恵器の多くは破片でしたが、平成 28 年度に調査した竪穴建物跡から壺の上部が復元できる須恵器破片が出土しました。この破片と平成 26 年度に調査した別の竪穴建物跡から出土した破片が接合し、ほぼ一個の須恵器壺を復元することができました。この 2 つの竪穴建物跡は約 100m 離れていて、土に埋まる時に偶然に混入したのではなく、そこに居住していた人びとが意図的に残したものとみられ、まつりや^{いの}祈りに使用した可能性があります。

須恵器は、集落の人びとが外の地域と交流をもっていた証であり、出土状況からその考え方や扱い方を検討させる重要な資料となりました。(芋坪 祐樹)



平安時代の竪穴建物跡の床面から出土した須恵器壺



復元した須恵器壺
(左写真の竪穴建物跡出土)

土塁の下から堀を発見～^{はちのへじょう}八戸城跡～

八戸城跡は、現在の八戸市内丸に位置する江戸時代の城跡を中心とした遺跡です。馬淵川右岸の標高約20mの段丘崖を利用して江戸時代の八戸城は築かれますが、これまでの発掘調査により、縄文・弥生・奈良・平安時代などの遺構・遺物もみつっています。官庁及び市街地として発展してきたこの地区は、いつの世の人にとっても好条件の立地だということがわかります。

内丸地区は現在も開発が多く行われ、発掘調査件数も市内では比較的多い場所です。平成28年度は試掘調査も含めて合計5件の発掘調査がありました。ここでは特に成果のあった道路舗装工事に伴う第37地点について紹介します。

この調査区は、八戸城跡の「^{ほんまる}本丸」の一部にあたります。発掘調査により、^{どるい}土塁跡と^{ほり}堀跡のそれぞれ一部がみつかりました。土の堆積状況を観察し、この土塁のつくられ方と堀跡の埋まり方を調査したところ、堀を埋め立ててから平らな土台をつくり、さらにその上に土塁をつくっていることがわかりました。

この土塁と堀跡は「本丸」の中でも八戸藩主が暮らしていた^{ごてん}御殿の東側に位置し、御殿のある空

間と外を区画するものだったとみられます。^{ぶんせい}文政10年(1827)の八戸城本丸全体の状況を記録している「古御殿御絵図面」によると、御殿の東側に「土手」と記されており、以前はその下に堀があったことが発掘調査により明らかとなりました。

文献資料が多く残されている江戸時代の歴史においても、新たな事実が発掘調査によりわかることがあります。今回の発掘調査でも大きな成果を得ることができました。(苧坪 祐樹)



表側：動物の形をしたつまみ

裏側：^{かみしも}袴姿で座ってこちらを見上げる武士

出土した江戸時代の陶器蓋 (スケール 1/2)



調査後の堀跡全景



土の堆積状況 (堀跡と土塁)

平成 28 年度是川遺跡出土品保存修理事業

平成 23 年度に重要文化財に追加指定された是川遺跡出土品の中には、欠損や脆^{もろ}くなっている部分があり、修理や補強を必要とするものがあります。特に漆製品や木製品は劣化しやすいので、長期間保存するためには適切な補強を行うことが重要です。貴重な文化財を未来に伝え残していくために、毎年少しずつ保存修理を進めています。

平成 28 年度は、壺形土器 1 点、弓 3 点、飾り太刀 2 点、掘り棒 2 点、ヤス軸柄 2 点、計 10 点の保存修理を行いました。漆膜がめくれあがっている部分や、亀裂が入っている部分に樹脂を充填して補強し、違和感のないように彩色して仕上げます。また、漆製品・木製品については保存台を作成しました。保存台はシリコンを使って資料の型をとっており、出土品に負荷がかからない状態で安全に保管することができます。(西村 広経)



壺形土器 修理前

壺形土器 修理後

欠けていた口縁部を復元し、亀裂は樹脂で埋めて補修しました。



保存台に収納した修理後の飾り太刀

是川遺跡の研究者たち ⑥ 甲野勇・宮坂光次

是川遺跡の発掘調査記録を初めて雑誌で紹介したのが甲野勇と宮坂光次です。両氏は、東京帝国大学理学部を卒業後、大山史前学研究所に入所し、数多くの縄文時代の遺跡の発掘調査を行い、その成果を次々に学界に報告しています。

昭和 4 年 (1929) 4 月、甲野は中居遺跡の低湿地^{ていしつち}、宮坂は一王寺遺跡の貝塚の学術調査を行っています。

中居遺跡の調査では、縄文時代晩期の土器・石器・土製品・石製品・植物製品・骨角器のほかに、堅果類・哺乳類の骨・貝・昆虫など数多くの遺物が出土しています。これらは、昭和 5 年 7 月、史前学雑誌第二巻第四号に「青森県三戸郡是川村中居石器時代遺跡調査概報」として報告されています。

一王寺遺跡の調査では、縄文時代前・中期の土器・石器・土製品・石製品・骨製品のほかに、堅果類・哺乳類の骨・魚骨・貝などが出土しています。同年 11 月に、史前学雑誌第二巻第六号に「青森県是川村一王寺史前時代遺跡発掘調査報告」として報告されています。

これらの報告資料は、遺跡の地形図・調査地点・基本層序が明記され、遺物の写真・実測図・拓本なども掲載され、科学的に高い水準の報告となっています。(村木 淳)



平成 28 年度八戸市遺跡調査報告会

平成 28 年 11 月 12 日に、八戸市内の遺跡発掘調査の主な成果を発表する遺跡調査報告会を開催しました。今回は、市内外から約 70 名が参加されました。報告会では、縄文時代前・中期の一王寺 (1) 遺跡 (是川地区)、飛鳥～平安時代の田面木遺跡 (田面木地区)、中世の聖寿寺館跡 (南部町) の調査成果とともに、秋季企画展「馬淵川流域の縄文時代」について報告を行いました。

遺物展示会場では、一王寺 (1) 遺跡の骨角器、動物遺存体 (シカ・イルカ、魚骨、貝殻など)、植物遺存体 (トチノキ・コナラ種実など)、田面木遺跡の土師器や須恵器、聖寿寺館跡の陶磁器、銅製品などを展示しました。

平成 19 年度から 28 年度まで、過去 10 年分の遺跡調査報告会の資料は、是川縄文館のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。(芋坪 祐樹)



遺物展示会場のようす

一年間を振り返って

是川縄文館に配属になって 1 年が過ぎようとしています。旧南郷村の出身なので、小学生の頃から縄文学習館や博物館に何度も見学に行っていました。いま、自分がその展示に関わることができる、ということに大きな幸せを感じています。

大学 4 年間は八戸を離れておりましたが、一度地元を離れたことによって是川遺跡をはじめとする八戸の埋蔵文化財の素晴らしさをより強く実感できたように思います。平成 28 年度に携わった「馬淵川流域の縄文時代」展でも、自分と同じ地域に暮らした先人たちのものづくりの技術の高さにただただ驚くばかりでした。

これからも、先輩方のご指導をいただきながら、縄文文化の奥深さと、八戸の埋蔵文化財の素晴らしさを伝えられるような仕事をしていきたいと思っています。(上ノ山 拓己)



特別展ギャラリートークにて (解説中の筆者)



トチの実を食べる教室にて (餅をつく筆者)

「掘り day はちのへ」 20 年

市内の遺跡発掘調査の紹介を主に、折々の文化財イベント等の話題も混ぜた「掘り day はちのへ」は、平成9年の第1号以来、号を重ね、今年20号の節目を迎えました。個々の内容は盛りだくさんなので、これまでの掲載記事の見出しを表に羅列しましたが、今後もわかりやすさ、親しみやすさを第一に心がけた紙面づくりを行なっていきたいと思っています。(宇部 則保)

| 年度 | 号 | 遺跡発掘情報 | 話題・イベント紹介等 |
|-----|-----|-------------------------------------|--|
| H9 | 創刊号 | 八戸城・新井田古館・丹後平古墳 大仏・西長根・松ヶ崎 | 「発掘と女性」「ある一日、そして一年」 「風張遺跡の環状集落と発掘報告書の刊行」 |
| H10 | 2号 | 丹後平(1)・牛ヶ沢(4)・館平 人首沢・大仏館・一日市・大仏 | 「発掘調査の届出あれこれ」「掘り出された土器のゆくえ」「発掘おねえさん」 |
| H11 | 3号 | 中居・酒美平・市子林・西長根 八戸城跡・新田 | 「縄文時代の時期と土器編年」 |
| H12 | 4号 | 田向冷水・中居・丹後平古墳 八戸城跡・牛ヶ沢(4)・盲堤沢(3) | 「文化課の四季」 |
| H13 | 5号 | 林ノ前・重地・中居・八戸城跡 | 「明治時代の八戸三社大祭」「八戸発展の基礎を築いた2人の銅像が完成」 |
| H14 | 6号 | 市子林・中居・牛ヶ沢(4)・田向 | 「平成14年度八戸市遺跡調査報告会」「縄文時代草創期の土器」「カモシカ班出動」 |
| H15 | 7号 | 中居・大仏館・新田城跡 田向冷水 | 「是川縄文の里整備について」「八戸三社大祭国重要無形民俗文化財に指定される」「平成15年度八戸市遺跡調査報告会」 「文化課1年を振り返って」 |
| H16 | 8号 | 田向冷水・中居・市子林 | 「遺物の保存」「江戸時代の民家を掘る」「平成16年度八戸市遺跡報告会」「是川縄文の里シンボルマーク決定」「蘇る縄文の漆」 「あなたの街の南部会館」「激動の1年を振り返って」 |
| H17 | 9号 | 市子林・荒谷・田向冷水 | 「特別展 水辺と森と縄文人」「縄文時代早期の土器」「発掘された化粧用具」「平成17年度八戸市遺跡報告会」 「復元された縄文漆器」「縄文関係文献寄贈される」「癒しの空間 南部氏庭園」「月日は百代の過客にして」 |
| H18 | 10号 | 八幡・館平・林ノ前・田向 | 「焼き物と遺跡」「平成18年度八戸市遺跡調査報告会」「ふるさと先人パネル展を開催」「是川縄文の里整備事業」 |
| H19 | 11号 | 新井田古館・松ヶ崎・林ノ前 | 「林ノ前遺跡の金属製品」「是川遺跡は三遺跡の総称」「平成19年度八戸市遺跡調査報告会」「遺跡からみたたばこの話」 「第30回民俗芸能の夕べ開催」「鮫の神楽DVD完成」「是川縄文の里整備事業」 |
| H20 | 12号 | | 「祝 国宝指定! 風張1遺跡出土 合掌土偶」「合掌土偶が出土した風張1遺跡」「土偶の移り変わり」「追想、合掌土偶」 「是川縄文館建設中」「是川縄文の里整備事業」 |
| H21 | 13号 | 林ノ前・湯ノ沢・田向・一王寺(1) 千石屋敷 | 「合掌土偶商標登録」「平成21年度八戸市遺跡調査報告会」「1年間を振り返って」「マスコットキャラクター決定」 「本棟工事完成」「運営検討委員会」「鼎談 縄文土偶の魅力」「是川遺跡PR事業」 |
| H22 | 14号 | 林ノ前・一王寺(1)・堀田 八戸城跡 | 「八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」が開館します」「是川遺跡出土品が重要文化財に追加指定」 「平成22年度八戸市遺跡調査報告会」「1年間を振り返って」 |
| H23 | 15号 | 八戸城跡・田代・田面木・坂中 | 「是川遺跡の研究者たち①石田収蔵」「史跡は川石器時代遺跡発掘調査報告書刊行」「是川縄文館が開館しました」 「平成23年度八戸市遺跡調査報告会」「1年間を振り返って」 |
| H24 | 16号 | 田代・新井田古館・松ヶ崎・館平 | 「平成24年度八戸市遺跡調査報告会」「是川遺跡の研究者たち②長谷部言人」「特別展 発掘された日本列島2012」 「秋季企画展 縄文のストーンサークル」「新しい竪穴住居ができました」「是川遺跡出土品保存修理事業」 |
| H25 | 17号 | 館平・田面木・咽平・新井田古館 一王寺(1) | 「平成25年度八戸市遺跡調査報告会」「是川遺跡出土品保存修理事業」「是川遺跡の研究者たち③喜田貞吉」 「特別展・秋季企画展」「国史跡「是川石器時代遺跡」が追加指定されました」 |
| H26 | 18号 | 一王寺(1)・熊野堂・白蛇 根城跡岡前館 | 「特別展 トーテムポールの人びと」「秋季企画展 海と火山と縄文人」「平成26年度は川遺跡出土品保存修理事業」 「是川遺跡の研究者たち④杉山壽榮男」「平成26年度八戸市遺跡調査報告会」「1年間を振り返って」 |
| H27 | 19号 | 田面木・重地・八戸城跡・八幡 | 「平成27年度は川遺跡出土品保存修理事業」「特別展 漆と縄文人」「秋季企画展 小川原湖周辺の縄文文化」 「平成27年度八戸市遺跡調査報告会」「是川遺跡の研究者たち⑤山内清男」 |



今までに刊行した「掘り day はちのへ」(中央の冊子が創刊号)



平成 28 年度 八戸市内発掘調査一覧

| 遺跡名 | 調査 | 調査原因 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 種別・主な時代 |
|-----------------|------|-------------------|------------------|----------|------------------|
| 鹿島沢古墳 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.4.6 | 10 | 古墳・奈良・平安 |
| 中道遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.4.7 ~ 4.14 | 150 | 散布地・縄文 |
| 市子林遺跡 第 21 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.4.8 ~ 4.11 | 67.5 | 集落跡・縄文・古墳~近世 |
| 舟渡ノ上遺跡 第 3 地点 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.4.14 | 12 | 散布地・縄文 |
| 八戸城跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.4.15 | 21 | 城館跡・近世 |
| 新井田古館遺跡隣接地 | 試掘調査 | 範囲確認 | H28.4.18 | 28.5 | 集落跡・城館跡・縄文・奈良~近世 |
| 石手洗遺跡 | 試掘調査 | 内容確認 | H28.4.19 | 30 | 集落跡・縄文 |
| 雷遺跡 | 試掘調査 | 集合住宅建築 | H28.4.20 ~ 4.21 | 193 | 散布地・縄文・平安 |
| 雷遺跡 第 3 地点 | 試掘調査 | 集合住宅建築 | H28.4.20 ~ 4.28 | 240 | 散布地・縄文・平安 |
| 田面木遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.4.25 | 14.8 | 集落跡・縄文・弥生・奈良・平安 |
| 石橋遺跡 | 試掘調査 | 宅地造成工事 | H28.5.16 ~ 5.19 | 212 | 集落跡・平安 |
| 庵入遺跡 | 試掘調査 | 店舗建築工事 | H28.5.25 ~ 5.27 | 240 | 散布地・縄文・平安 |
| 石橋遺跡 第 8 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.5.30 | 75 | 集落跡・平安 |
| 稲荷後 (3) 遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.6.2 ~ 6.3 | 47.5 | 散布地・縄文 |
| 熊野堂遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.6.7 | 15 | 集落跡・縄文・奈良・平安 |
| 根城跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.6.15 | 5 | 城館跡・中世 |
| 新井田古館遺跡隣接地 | 試掘調査 | 範囲確認 | H28.6.24 | 25 | 集落跡・城館跡・縄文・奈良~近世 |
| 八戸城跡 第 35 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.7.7 | 24 | 城館跡・近世 |
| 熊野堂遺跡 第 3 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.7.8 | 43.5 | 集落跡・縄文・奈良・平安 |
| 雷遺跡 第 4 地点 | 試掘調査 | 集合住宅建築 | H28.7.13 ~ 7.14 | 143.5 | 散布地・縄文・平安 |
| 雷遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.7.28 ~ 7.29 | 24 | 散布地・縄文・平安 |
| 前川目遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.8.1 | 18 | 散布地・縄文 |
| 法領屋敷遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.8.2 ~ 8.4 | 12 | 散布地・縄文 |
| 駒ヶ沢遺跡 第 3 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.8.18 | 29 | 集落跡・縄文 |
| 駒ヶ沢遺跡 第 4 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.8.18 | 33.9 | 集落跡・縄文 |
| 櫛引遺跡 第 5 地点 | 試掘調査 | 寺院建築 | H28.8.18 ~ 8.19 | 54.6 | 集落跡・縄文 |
| 神子沢久保 (1) 遺跡 | 試掘調査 | 風力発電設備設置 | H28.8.19 | 18 | 散布地・縄文 |
| 新井田古館遺跡隣接地 | 試掘調査 | 範囲確認 | H28.9.1 | 27 | 集落跡・城館跡・縄文・奈良~近世 |
| 田面木遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.9.2 ~ 9.7 | 18 | 集落跡・縄文・弥生・奈良・平安 |
| 市子林遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.9.14 | 15 | 集落跡・縄文・古墳~近世 |
| 酒美平遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.9.15 ~ 9.16 | 16 | 集落跡・縄文・平安 |
| 神子沢久保 (1) 遺跡隣接地 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.9.16 | 9 | 散布地・縄文 |
| 八戸城跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.9.20 | 16 | 城館跡・近世 |
| 熊野堂遺跡 第 4 地点 | 試掘調査 | 個人住宅増築 | H28.9.21 ~ 9.23 | 11 | 集落跡・縄文・奈良・平安 |
| 市子林遺跡 | 試掘調査 | 道路造成工事 | H28.10.4 | 19.5 | 集落跡・縄文・古墳~近世 |
| 熊野堂遺跡 第 5 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.10.21 | 20 | 集落跡・縄文・奈良・平安 |
| 鴨平 (3) 遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.10.28 | 44 | 散布地・縄文 |
| 松ヶ崎遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.11.7 ~ 11.8 | 33 | 集落跡・縄文 |
| 新田遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.11.9 ~ 11.11 | 115 | 集落跡・縄文・奈良 |
| 市子林遺跡 | 試掘調査 | 店舗兼個人住宅 | H28.11.18 | 2.3 | 集落跡・縄文・古墳~近世 |
| 松長根遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H28.11.18 | 1 | 散布地・縄文 |
| 坊坂遺跡 | 試掘調査 | 携帯電話基地局 中継施設建設 | H28.12.7 | 5 | 散布地・縄文 |
| 天狗沢遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H28.12.8 | 10 | 散布地・縄文・平安 |
| 熊野堂遺跡 第 6 地点 | 試掘調査 | 道路拡幅工事 | H28.12.21 | 22.8 | 集落跡・縄文・奈良・平安 |
| 休場遺跡 | 試掘調査 | 携帯電話通信設備設置 | H29.1.11 | 7.5 | 散布地・縄文・平安 |
| 沢ノ上遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H29.3.14 | 80.3 | 集落跡・弥生・奈良・平安 |
| 酒美平遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H29.3.16 | 52.3 | 集落跡・縄文・平安 |
| 市子林遺跡 第 21 地点 | 本調査 | 個人住宅建築 | H28.5.10 ~ 5.20 | 173.6 | 集落跡・縄文・古墳~近世 |
| 田面木遺跡 第 49 地点 | 本調査 | 長芋・牛蒡作付け | H28.7.1 ~ 9.9 | 800 | 集落跡・縄文・弥生・奈良・平安 |
| 熊野堂遺跡 第 3 地点 | 本調査 | 個人住宅建築 | H28.7.19 ~ 8.12 | 140 | 集落跡・縄文・奈良・平安 |
| 駒ヶ沢遺跡 第 3 地点 | 本調査 | 個人住宅建築 | H28.9.2 | 29 | 集落跡・縄文 |
| 駒ヶ沢遺跡 第 4 地点 | 本調査 | 個人住宅建築 | H28.9.2 | 33.9 | 集落跡・縄文 |
| 熊野堂遺跡 第 5 地点 | 本調査 | 個人住宅建築 | H28.11.14 ~ 12.7 | 49.5 | 集落跡・縄文・奈良・平安 |
| 林ノ前遺跡 | 本調査 | 自然崩壊 | H28.6.6 ~ 6.22 | 82 | 集落跡・縄文・平安 |
| 一王寺 (1) 遺跡 | 本調査 | 史跡内容確認 | H28.8.22 ~ 10.31 | 61 | 集落跡・縄文 |
| 八戸城跡 第 36 地点 | 本調査 | 道路改良工事 | H28.9.20 ~ 10.31 | 400 | 城館跡・近世 |
| 重地遺跡 | 本調査 | 集合住宅建築 | H28.10.6 ~ 11.11 | 240 | 集落跡・縄文 |
| 櫛引遺跡 第 5 地点 | 本調査 | 寺院建築 | H28.11.2 ~ 11.30 | 230 | 集落跡・縄文 |
| 八戸城跡 第 37 地点 | 本調査 | 道路舗装工事 | H28.11.7 ~ 11.30 | 400 | 城館跡・近世 |



《調査事務局》(平成 28 年度)

八戸市教育委員会
 教育長 伊藤 博章
 教育部長 佐藤 浩志
 教育部次長兼教育総務課長 野田 祐子
 是川縄文館長 古館 光治
 副館長 清川 定吉
 《埋蔵文化財グループ》
 埋蔵文化財 GL 村木 淳
 主査兼学芸員兼社会教育課主査兼学芸員

杉山 陽亮
 主査兼学芸員 船場 昌子
 主査兼学芸員 横山 寛剛
 主事兼学芸員 田中 美穂
 主事兼学芸員 苧坪 祐樹
 主事兼学芸員 西村 広経
 臨時職員 小笠原 善範
 《縄文の里整備推進グループ》
 縄文の里整備推進 GL 宇部 則保
 副参事 大野 亨
 主査 金澤 匡志
 主査兼学芸員 小久保 拓也
 主査 熊野 聡美
 主査兼学芸員 市川 健夫
 主事 馬場 彩香
 主事兼学芸員 上ノ山 拓己
 非常勤主事 三浦 賢子
 非常勤主事 武山 美郷
 非常勤主事 菅澤 早希子

《平成 28 年度刊行》
 八戸市埋蔵文化財調査報告書

- 第 155 集 重地遺跡Ⅱ
- 第 156 集 八戸市内遺跡 34
- 第 157 集 一王寺 (1) 遺跡概報
- 第 158 集 八幡遺跡Ⅵ

掘りday はちのへ 第 20 号

発行年月日 2017 年 6 月 16 日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
 〒 031 - 0023
 青森県八戸市大字是川字横山 1
 TEL 0 178 (38) 9 5 1 1
 E - m a i l jomon@city.hachinohe.aomori.jp
 http://www.korekawa-jomon.jp
 (是川縄文館ホームページ)

印刷 大東印刷株式会社
 印刷部数：1,000 部 印刷経費：一部あたり 97.2 円

